

広重版画より 三島 朝霧

第2380回例会

2024.3.14晴

司会 南木一仁君

ロータリーソング 「我等の生業」
指揮 小塚英樹君

会長挨拶 会長 平出利之君

3月9日(土)の苗栗RC53周年の式典に総勢32名で行って参りました。式典は今までと違って少し「地味」に感じました。それと苗栗RCも新しいメンバーが増えて、世代交代がきていました。日本から出席したのは、我々の他に清水町長の関さんと付き添いの木村さんと、多治見西RCの方が4名参加されておりました。多治見西RCの会長さんが、中国語で挨拶をされたのが大変驚かされましたが、中国語の発音が難しいので十分には通じていなかったようです。でも、中国語で挨拶しようという気持ちは立派だと思いました。約1時間半の式典の後の懇親会は、例年通り大変な盛り上がりでした。それと、昔お世話になった方々とお会いし握手ができたことも、大変嬉しく有意義な時間を過ごすことが出来ました。それから、台北と苗栗間の移動はバスでしたので観光もできて良かったと思います。苗栗RCの会長のキッチンには大変な「おもてなし」をして頂きましたが、改めてまた5月に苗栗RC約20名が多治見西RCと三島西RCにまた訪問しに来ます。皆様方にはまたご協力が必要になりますので、宜しくお願い致します。最後に苗栗RCに行かれた方々皆様に感謝申し上げます。

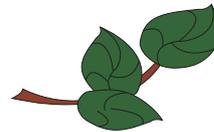


“こんにちは、ようこそ”
ビジター 岡 良森君(せせらぎ三島RC)
山口辰哉君(せせらぎ三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メー ッ ク ク ラ ブ	修 出 席 正 率
前々回	34/48	70.83%	38/48	79.17%
今回	43/50	86.00%	会員総数	53名

欠席者 芦川君、木村君、清水君、須田君、橋本君、古屋君、森藤君



幹事報告

- 1.本日例会の卓話は渡邊真生君です。よろしくお願いいたします。
- 2.次回例会は、3月28日(木)12:30呉竹 清水英治君の卓話です。

卓 話

自己紹介

渡邊真生君

今回、初めての卓話ということで、緊張していますが、皆さんの貴重なお時間をいただいておりますので、少しでも何かお役に立つお話となるよう、一生懸命準備してきましたので、どうぞしばらくお付き合いください。話の前半は、たった40年ですが、私の今までの人生の中のターニングポイントについて、後半は、私の仕事に対する想いやこれからやっていきたいことなどをお話したいと思います。今回の卓話で、渡邊真生という男がどんな人間なのかを、皆さんに知っていただく機会となれば幸いです。よろしくお願ひいたします。

早速ですが、皆さんに質問です。

人が生まれた日のことを誕生日といいます。誕生日の「誕」という漢字の意味をご存じですか？「誕」の字の意味は、いくつかありますが、(うむ、うまれる)という意味のほかに、(でたらめ、いつわる)という意味もあります。なにか違和感がないですか？

また、逆に人が死ぬ日のことを何というのでしょうか？死亡してこの世から旅立つ日を日本では、命の日と書いて「命日」と呼びます。

これは、諸説あると思いますが、私はこのように考えます。この世に生を受けただけでは、極端に言えば、ただ生まれただけです。例えば、永遠の命だと最初からわかっていたらどうでしょうか？1日1日を大切にしようと思えるでしょうか。

人生には必ず終わりがあります。この世の唯一の絶対は、人は必ず死ぬことです。

でもそれは、必ずしもネガティブなことだけではなく、限られた時間だからこそ、【命】や【生きる】ということの「価値」を感じられると思います。

つまり【生まれた】という事実だけでは、まだ「いつわりの人生」で、【死】という終わりを意識した時に初めて、その人の人生に「命」が宿る。そんな意味なんじゃないかと私は考えます。このような考え方をするようになったのは、私のいままでの経験や、現在の仕事に就いたことが大きく影響していると思います。生れについて簡単にお話させてください。1983年7月23日、長泉町で生まれました。

帝王切開での出産で母子ともに生死をさまよう出産だと聞いています。母のお腹から取り出されたとき、息をしていなかったそうです。それでも、なんとかこの世に生を受けたので、いただいた命を大切に生きていくようにと、真に生きるを書いてマサオという名前をいただきました。

すでに、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、私の父はロータリアンです。

私の実家は、私の祖父の時代から長泉町で「三島ダイハツ」という自動車販売整備の会社を営んでおります。現在も、長泉の健康公園の近くに店舗を構えて営業をしています。

母も経理の仕事をしていて、両親とも、とても働き者でした。朝早くから夜遅くまで、休みの日もお客様から連絡があるとすぐに駆け付けるような、商売人でした。

祖父は、私が生まれる少し前に亡くなっていて、祖父から父

が会社を引き継いだ時には多くの借金があり、会社を安定させるまで大変苦労したと聞いています。

実家にはキャンピングカーがあるんですが、これは、いつでも夜逃げできるように持っている。と子供のころ聞かされてました。

そんな、頑張り屋の両親のもと、末っ子長男として、不自由なくぐぬくと過ごしていましたが、人生最初のターニングポイントは小学生の時に訪れました。

左足の筋肉の中に腫瘍ができてしまう原因不明の病気を発病しました。これといった治療法もなく、小学生の時に障害者となりました。いまも、歩き方がぎこちなかったり、正座やしゃがむことはできません。走ることも難しいです。確かにできないことはありますし、悔しい気持ちもありますが、やれることも沢山あるし、この病気のおかげで、得たものも沢山あるので、ピハインドというよ、個性だと、子供のころから自然にそう思うようになっていました。

子供のころから病気とは共存することを選びましたが、その後も、なに不自由なく成長していきました。

そして、大学卒業後、自動車販売店の仕事を始めました。

三年間千葉県市川市のディーラーで修行させていただいた後に、父の会社に入り営業の仕事をしていました。

そんななか、30歳の時に2回目のターニングポイントが訪れました。30歳を迎えるころ、今まで症状が安定していた、足の腫瘍の拡大が再発、そのままだと、内臓に侵入して、腸を巻き込む可能性が出てきました。そうなると、最悪の場合、人工肛門をつけることになり、日常生活は送れなくなると主治医に言われ、抗がん剤治療をすることになりました。

そこから3年間の抗がん剤治療を経験しました。辛い想いや苦労もしましたが、家族の支えもあって、なんとか症状を安定させることができました。

ただ、この経験を通じて、当たり前前に送っている日常が、突然当たり前ではなくなることや、自分の死を身近に感じるようになりました。そのことで、自分の人生や生きることについて考えるようになり、後悔のない人生を送ろうと、やれることはやれるときにやろうという想いが強くなりました。

そして、実家の仕事を退職し、35歳にして海外に自分探しの旅に出ました。

最初、反対していた父親も最後は、「辞めるなら、二度と会社には戻すことはない。その覚悟でやりなさい」と、私の想いを尊重してくれました。父がしつかり、退路を断ってくれたことで、覚悟が決まったと思うので、ありがたかったと思います。

半年ほどですが、海外周遊の旅をして、ほんとにいろいろなことを感じる事ができました。

この話をすると時間が足りないので割愛しますが、このタイミングで旅をして良かったと思っています。

帰国後、新しい仕事を探すことになりますが、今までの自分は言い訳ばかりの人生だったなという反省と、自分の人生は自分自身がコントロールするという想いもあり、誰にも言い訳の効かない、完全歩合制の営業の仕事に興味を持ったのが今の仕事を始めるきっかけでした。

ここから私の職業のことについてお話させていただきたいと思います。

今お話したような経緯で、この業界に飛び込んで約6年ほど経ちます。

それまで、箱入り息子のような生活をしてきましたので、初めて社会の大海原にでて、とても苦勞しました。三島美装の杉崎さんとは、私がこの業界に入ってからすぐに知り合っているのですが、当時の私がどれほどボンコツだったかを知っていると思います。それでも、お客様や先輩方に恵まれ、なんとか仕事を続けることができ、やっと最近、カタチになってきたかなと思えるようになりまし。そして、今思うことは、この仕事に巡り合えてよかったと思っていますし、今の仕事に誇りをもっています。

私は、【保険はお客様の人生を良くするための道具の一つ】だと考えています。

保険の【販売】を仕事にするのではなく、「お客様の人生を良くすること」を自らの仕事と捉えて、その実現のための【手段】として保険サービスをご提供するというのが私の考えです。

私は商談の最初にこんな質問をお客様にすることが多いです。「あなたは、自分の人生の終焉を迎える時、どんな想いでいたいですか？」と問いかけます。

先ほどもお伝えしましたが、この世の唯一の絶対は、人は必ず死ぬことです。

しかし、それを意識して生活している人はあまり多くありません。

でも、まず自分がいつか必ず死ぬという「事実」をポジティブに意識してもらうこと、そして、自分の理想の最後の迎え方について「考えていただくこと」が重要で、次にその理想の最後を迎えるために、どんな生き方をすべきかを【逆算で思考】していただくこと、それが「人生を良くすること」につながると私は考えています。

そして、「人が死ぬこと」に関する仕事を、仕事としているのは、葬儀屋さんとお坊さんと、生命保険営業の三つくらいかなと思います。その中で、唯一、生きていながら「死」について真正面からお話ができるのは、生命保険営業だけじゃないかなと思います。なので、生命保険営業マンには、保険を販売することだけじゃなく、お客様の人生を良くするためにできることが、もっとあるんじゃないかと考えています。

時にはコンサルタントのように、時にはカウンセラーのように、相談相手のように、お客様が自分の人生を良くしていくために必要なプレーンとして保険営業マンを選んでいただく、そんな存在になりたいです。生命保険営業という職業に、今までにない付加価値を見出し、社会の中で存在価値を高めていくことが、私がこのビジネスでチャレンジしていきたいことです。

少しこれからやっていきたいことをお話させてください。

今、私が最も力を入れて取り組んでいることは、中小企業の財務支援です。

予定では、今年中に、今の仕事をつづけながら、中小企業財務支援の会社を新たに立ち上げたいと考えていて準備をしています。日本の企業の99.7%が中小企業で、雇用全体の70%を中小企業が担っています。

一方で、その日本を支える中小企業の7割が赤字という中小企業庁のデータがあります。

また、コロナ融資の返済も始まり、資金繰りに苦しむ中小企業はこれからさらに、増えていくこととなります。

商品を買ったり、自社のサービスを提供してお金を稼ぐことが上手な経営者さんは多いのですが、財務や決算書の数字は苦手とおっしゃる方が多いと感じました。

なので、そのように経営者さんの苦手な部分を、私が支援させて

いただくことで、中小企業の成長に貢献できると考えています。そして、中小企業の財務支援も基本的な考え方は一緒です。

明確な目標を決めて、逆算で今やるべきことを考える。それが事業計画になると思います。

そして、数字だけでなく、企業理念も大切な要素だと思います。どちらかが欠けることなく、論語とそろばん経営を支援したいと考えています。

企業にとっての終わり方は様々です。親族内事業継承や社員事業承継、M&A、または解散などです。

事業継承の選択肢を経営者自らが持つために、まずは財務基盤の強化が必要だと考えています。

そして、揉めない困らない相続・事業継承まで継続的に伴走支援することで、その企業が100年、200年と続く永続企業となり、地域社会の発展に貢献できると考えます。

それが、私の企業理念です。自分の専門分野を磨き、提供できる付加価値を高め、仕事を通じて社会の役立つことが、ロータリー精神の職業奉仕の考え方につながるのかなと考えています。

最後に、

私の理想の人生の終わり方は、たくさんの人に「ありがとう」と言ってもらえる人生の終焉にすることです。自分だけがやりたいことやって、後悔ない人生にしても、それは私が望むものではなく、利他の精神で人のために尽くし、社会に貢献することで、私の理想の最後に近づけると思っています。

親から真生という名前をいただき、まさに、その名前の通りの生き方をしようとしているなどと思いますし、今思えば、今の仕事をするのにピッタリの名前をいただいたなと感じます。そして、これからは名前に恥じないような生き方をしていきたいと思います。

まだまだ未熟者ですが、この年齢でロータリーのお仲間に入れていただけたことは、とても良かったと感じています。これからも、先輩方から多くのことを吸収していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

ご清聴ありがとうございました。



おめでとう

会員誕生日 杉崎君、町野君、野田君
入会記念日 諏訪部君



スマイルボックス

3月7日のスマイル

- ◆伊東西RC稲葉君・小川君、ご挨拶に参りました。今後も宜しくお願いします。
- ◆伊丹君、しばらくぶりの出席です。この3月1日よりスルガBK沼津の本店の賄業務やらせていただく事になりました。岩崎支店長様ありがとうございます。
- ◆岩崎君、Dテーブルのテーブル会を開催しました。参加の皆様、楽しく、ためになるお話をありがとうございました。

3月14日のスマイル

- ◆せせらぎ三島RC山口君、今日はお願いがあって岡会長と2人で伺いました。お世話になります。
- ◆平出君、国際奉仕委員会をはじめ苗栗の周年事業に参加していただいた皆様、心より御礼申し上げます。
- ◆森崎君、会社で良い事がありましたのでスマイルします。国家資格の技術士の合格発表があり、社員3名が合格しました。合格率は9.8%、よく頑張りました。
- ◆渡邊君、2月19日から3月8日まで約3週間の長期休暇をいただき、夫婦2人でフランス旅行に行っておきました。パリから北フランスやベルギーなどを周遊し、充実した旅行となりました。夫婦の仲もよりいっそう良くなり、よりフレッシュ休暇となりました。例会の欠席などご迷惑をおかけしました。
- ◆遠藤(正)君、苗栗RC創立記念出席者の皆様お疲れ様でした。特に清水町長と苗栗市表敬訪問していただいた関本さん、前田さん、町野さん、お疲れ様でした。旅費は参加者の変更なく予定内で清算できました。
- ◆Fテーブル、3月12日にFテーブル会を開催しました。少人数での開催となりましたが、その分深い話もでき、有意義な時間となりました。会費の差額をスマイルします。

苗栗RC公式訪問



(週報担当:町野 暉)